

企業「トップが語る」 わが社の戦略・展望



役員 前田 知憲 氏

株式会社ハーベス

「埼玉事業所（埼玉県伊奈町）内に「（仮称）ハーベス伊奈R&Dセンター」が完成します。

「フッ素コーティング剤や化粧品の研究棟の一部が2020年4月にも稼働する。包装充填の工場棟のフル稼働は6月頃を見込む。

工場内の事務エリアはフリーアドレスとし、生産性の向上を図る。また一般の方向けの工場見学を受け入れも検討している。福利厚生策としては、キッチン、男女別マッサージュチェアや畳スペースも設ける。

「自動車部品などに使われる特殊潤滑剤の動向はいかがでしょう

伊奈にR&Dセンター完成 潤滑剤以外の事業も堅調

厳しい状況だったが、19年後半から向上基調になってきた。20年も堅調な動きになるとみている。当社で売り上げの最も大きい潤滑剤だが、外的要因の影響も

水搬油など多様な用途に使われるフッ素コーティング剤事業、犬や猫などのペット向け栄養補助食品の事業は黒字化を果たした。ペット向け栄養補助食品は台湾のパートナー企業と組み、海外市場への展開も考えている。福島県金山町の源泉から採水して製品化している天然炭酸水

「少しずつ浸透させていこうと、できることから始めている。各事業部で具体的なSDGs目標を掲げる。目的意識のある優秀な人材を確保するためにも、SDGsに真摯に取り

会社情報
▷社長＝前田知憲氏▷所在地＝埼玉県さいたま市浦和区常盤9-21-14、048・824・2621▷資本金＝5250万円▷売上高＝約46億円（2020年3月期見込み）▷従業員＝約150人▷設立＝1988年（昭63）4月
<https://www.harves.co.jp/>



代表取締役 木口 達也 氏

日本シーム株式会社

「環境への負荷軽減技術が世界的に注目されています。

「国連気候変動枠組条約締約国会議（COP）での議論や国連の持続可能な開発目標（SDGs）により、取引先の意識が高まっております。当社が手がける環境機械は登り基調

にある。補助金を使いやすくなったことも追い風だ」

「こうした中、どんな成長戦略を描いているのでしょうか。

「売上高を伸ばすより、機械やプラントの品質をより一層向上させることが大切。また、新製品の開発にも力を入れたい。プラントは8時間稼働が多いが、大規模プラントだと24時間稼働す

ることもある。突発的なメンテナンスに人と時間が奪われると、新製品開発にも影響が生じる」

「品質向上に向けた具体的な取り組みは。

「週に1回、トップ自らが品質を上げるための施策を皆に話している。継続した取り組みはもちろん、受注時には、お客さまとの綿

密な打ち合わせを重視している。予算と納期の範囲内で最適な提案ができるよう、初期段階で徹底的にお客さまの要望を聞き取る。そのすれば、自社とお客さまの考えをすりあわせている

「環境機械は破碎、粉碎、洗浄、選別、脱水、乾燥などの工程がある。最近は選別工程が問われており、お客さまからの注文・要望も選別が多い。この精度を上げれば材料リサイクルが容易になる。

「当社はペットボトルのリサイクルプラントで、ボトルとキャップ、ラベルを分けるプラントも手がけており、同分野では約30%のシェアがある」



新社屋完成予想図

会社情報
▷社長＝木口達也氏▷所在地＝埼玉県川口市安行北谷665・048・298・7700▷資本金＝1000万円▷売上高＝9億円（2019年9月）▷従業員＝37人▷設立＝1977年（昭52）5月
<https://www.nihon-cim.co.jp/>